

八千代市郷土歴史研究会

会長 村田一男

事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

平成 21 年度八千代市民文化祭

ふるさとの歴史展

11月28日

みなさん、ふるさとの歴史展へようこそおいでくださいました。平戸村の昔を研究して 2 年、今年は平戸にしかない事績を取り上げ魅力ある村の歴史を紹介しました。  
また、八千代市の名物のひとつ八福神を紹介し、下総三山の七年祭りや当会の活動など 4 部にわたって展示しました。

I 部 旧平戸村の総合研究 その II

II 部 八千代八福神めぐり

いつの世も人々はしあわせ(福)豊かに(禄)無事に生きる(寿)ことをもとめ、庶民生活の中に七福神信仰が流行してきました。八千代の福神は八福神で全国でもめずらしい名所です。20 年前本会が創設に関わった八福神の寺を紹介します。

III 部 「下総三山の七年祭り」

千葉県指定民俗文化財となつてはじめての祭りのうち高津・大和田・萱田町の花流し風景を写真で紹介します。

IV 部 活動風景

- ・ 例会風景・丑歳御縁年出羽三山の旅
- ・ 機関誌「史談八千代」バックナンバー展示
- ・ 最新号「史談八千代 34 号」発売中

八千代市郷土歴史研究会 会長 村田一男

平成 21 年度 市民文化祭 展示案内

と き 11 月 28 日 (土) 午後 1 時～5 時  
11 月 29 日 (日) 午前 9 時～午後 4 時  
ところ 勝田台文化プラザ 2 階展示室  
展示解説は両日とも 午後 2 時から  
『史談八千代』第 34 号も当日発刊

III 部 「下総三山の七年祭り」

高津・大和田・萱田町の花流し写真

IV 部 活動記録・丑歳御縁年出羽三山の旅

八千代八福神創設 20 周年 「八福神の見どころ」  
八千代八福神創設とご案内

村田一男

人々は昔から日々の幸せと現世利益を願って福・禄・寿を求めて神頼みをし、生業をかさねてきました。室町時代には仏教經典の七難七福にもとづきいろいろな神様への参詣がはやり、七福神のメンバーは一定していなかったが江戸時代になると七柱の福神信仰が発達しました。

当会では七福神研究を行った結果、福神巡拝という寺院参詣の新しい目的・名所づくりを考え、一般的な七福神に吉祥天を加えた八千代の八にふさわしい「八千代八福神」の創設を市仏教連合会に提案しました。

平成元年 (1889)、同会のご協力で市内全域に及ぶ八寺院に福神が安置され、市内の特色ある新文化として八福神めぐりが実現されました。

当会では創設 20 周年を記念し気軽な歴史探訪として「八福神の見どころ」を特集しました。

I 部 平戸村の歴史探訪 村の多彩な魅力

1. 東照寺案内
2. 平戸河岸研究
3. 利根川舟運と平戸河岸
4. 印旛八景の今
5. 植草兵左衛門頌徳碑
6. 中台氏の記念道標と揮毫した石碑

II 部 八千代八福神めぐり

当会では創設 20 周年を記念し歴史探訪として「八福神の見どころ」を特集しました。

- |         |     |     |
|---------|-----|-----|
| 1. 吉祥天  | 小池  | 妙光寺 |
| 2. 大黒天  | 真木野 | 妙徳寺 |
| 3. 福祿寿  | 保品  | 東栄寺 |
| 4. 弁財天  | 米本  | 長福寺 |
| 5. 毘沙門天 | 村上  | 正覚院 |
| 6. 寿老人  | 萱田  | 長福寺 |
| 7. 恵比寿  | 吉橋  | 貞福寺 |
| 8. 布袋尊  | 高津  | 観音寺 |

今までに巡った七福神  
事務局

平成9年から、毎年新春行事として松の内(元日～15日まで)に午後から各地の「七福神めぐり」と「その周辺の史跡・名所」を散策しています。

会員外の方々も多勢参加されております。

是非皆様もご参加ください。

各「七福神めぐり」の詳細は下記通信の各号に掲載されていますのでご参考まで。

平成9年1月	隅田川七福神	通信17号掲載
平成11年1月	習志野七福神	通信24号掲載
平成12年1月	柴又七福神	通信29号掲載
平成13年1月	谷中七福神	通信33号掲載
平成14年1月	日本橋七福神	通信38号掲載
平成15年1月	深川七福神	通信42号掲載
平成16年1月	佐倉七福神	通信45号掲載
平成17年1月	千住七福神	通信47号掲載
平成18年1月	品川七福神	通信53号掲載
平成19年1月	新宿七福神	通信57号掲載
平成20年1月	浅草名所七福神	通信61号掲載
平成21年1月	目黒七福神	通信65号掲載

平成22年1月7日(木)は「亀戸七福神」を予定しています。

午後1時 総武線亀戸駅北口集合です。  
会員外の方々もお誘い合わせご参加下さい。

研修旅行 丑歳御縁年出羽三山の旅  
事務局



10/18(日) 晴れのち雨  
鶴岡市曹洞宗玉川寺で抹茶休憩・庭園見学、月山八合目へ。齊館泊。

10/19(月) 雨のち晴れ。  
山伏の境内案内、三神合祭殿(昇殿・祈祷)、出羽三山歴史博物館、荒澤寺、いでは文化記念館、五重塔、正善院、黄金堂などを巡る。大日坊泊。

10/20(火) 昨夜から大雨  
大日坊本堂で朝のおつとめ・御沢諸仏めぐり見学、旧大日坊跡、六十里越街道の庚申塔、大日坊仁王門、注連寺、田麦俣、湯殿山などを巡る。  
勝田台 20:30 帰着。

長妙寺に残る悲痛な墓碑  
佐久間弘文

「昭和20年6月10日朝7時45分、グアムから飛来した27機のB29が千葉市上空に達した。このとき県立千葉高等女学校では数名の生徒が飛行機部品組み立ての作業中であつた。・・そしてその瞬間、形容し難いすさまじい轟音と圧力が身体全体に押し迫つた。生の意識が途絶した・・」  
(『千葉市空襲の記録』より)

「機械を純血に染め、雄々しき職場死守」、これは昭和20年6月24日付け『読売報知』のタイトル記事で、冒頭の千葉空襲被災者の手記がその日のことを伝えている。そして萱田町長妙寺の一角にある墓碑に、この記事のもととなった悲痛な事実が刻されている。

この空襲で16歳の2人の同校の生徒が短い一生を終えた。そのうちの一人が長妙寺に葬られた川城秀子氏である。痛恨の思いを込めて父親が建てたのであろう墓碑には、この殉職ののち某海軍中將から渡された彼女への表彰状がそのまま彫られている。

被災から3日後の校葬で沼田校長の追悼の辞は声涙あふれるものであつたという。その校長もひと月後に同校空襲で殉職する。第九代校長沼田亀之助、元千葉県知事沼田武氏の父である。

そのときから65年余、当時の級友がいまでも墓参りに訪れていることを長妙寺のご住職から聞いた。どこの誰か分からないという。しかし千葉女子高佐藤教頭などの尽力により、墓参する一人は船橋市海神にお住まいの老婦人であることが分かつた。

お会いすると「これからも元気なうちはお墓参りを続けるつもり」と丁寧な言葉がかえつてきた。



## 子規庵散歩

関和時男

先の八千代市の句額研究の際、中央では、俳諧を月並みと決めつけた子規の新俳句提唱に揺れ動いた最中であったが、この八千代にはその気運は伝わらず江戸の残り香のする俳諧の世界であったと記した。

今回、図らずも機会を得て根岸の里の「子規庵」を訪ねた。JR 鶯谷駅の北口を出て尾竹橋通りを行くと左に豆腐料理の「笹乃雪」があり、店前に子規直筆の俳句

「水意月や 根岸涼しき 篠の雪」

の碑がある。その少し先の路地を左に折れホテルの並ぶ狭い道を抜けると左側に昭和時代のいまにも朽ち果てそうなモルタル建てのアパートがあり、其の隣が「子規庵」である。

正岡子規につき概要を記すと、



正岡子規像

ときお画

子規は慶応3年(1867)9月17日に松山に生まれた。16歳で上京、第一高等中学校を経て、文科大学哲学科に入学。はじめは政治家を志したが挫折。

その後俳句に熱中、子規と号し陸羯南の日本新聞社に入社、旧宗匠の俳諧を「月並み」と評し、写実を重んじ、「俳句」と名付け俳諧革新を唱えた。

明治30年(1897)松山で発刊された「ほととぎす」を31年(1898)東京に移し、「歌よみに与ふる書」を「日本」に連載し、短歌の革新にも力を注いだ。

伊藤左千夫は

「牛飼が 歌よむ時に 世の中の  
あらたしき歌 おほひに起る」

と歌い「アララギ」を発刊し活躍した。

子規は、明治24年(1891)12月から本郷駒込に住んでいたが27年(1894)根岸82番地の陸羯南の東隣に移り住み、ここに母(八重)と妹(律)を呼び寄

せ、書斎、病室と句会歌会集会等の場とした。晩年カリエスに罹り、ついに明治35年(1902)9月19日病室において生涯を終えた。

『須祭書屋俳話』『俳諧大要』『俳人蕪村』『歌よみに与ふる書』『墨汁一滴』『仰臥漫録』『病林六尺』等の著書を残した。

次に「子規庵」について。

明治からの家屋は、大正12年(1923)の関東大震災で傾いたが15年(1926)その修理改築を完成。昭和20年(1945)4月14日、空襲で焼失、蔵のみ残る。25年(1950)6月19日子規庵再建。27年(1952)11月3日、都文化史蹟に指定される。

現在の「子規庵」は、25年に再建された家屋。

玄関・八畳(座敷・床の間)・六畳(病間)・四畳半(次の間)三畳(母の間)と台所である。

現在の3DKというところであろうか。

八畳は専ら弟子、文人達の集会所、ここで句会、歌会、写生文の会も開き、明治文学のひとつまが開花したという。

庭は思ったより広く、昭和2年(1927)建てられた土蔵(子規文庫)や「あずまや」等、総坪数五十五坪余である。

病間の庭先の棚にはヘチマが垂れ下がり当時の面影を偲ばせている。

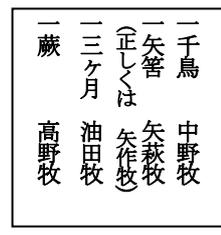
土曜日の午前中ではあったが、見学中に俳句愛好家であろう参観客が次から次へと訪れ、静かな流れを庵内に醸しだしていた。

外へ出ると、町中はひっそりとしてこの一角だけが明治の根岸の里であった。そして、爽やかな秋の日のひとときがながれていった。

なお子規は房総旅行で、明治24年(1891)3月25日、大和田の「柳屋」に泊っている。

### 古文書あれこれ

西部劇に出てくる馬は持ち主の焼き印が押され紛争の時の証拠になる。「四十里野御牧場」を読むと各牧場の馬に焼き印を押して管理したとある。ここに小金五牧、佐倉七牧の一部の焼き印を紹介する。



\*\*\*お知らせ\*\*\*

---

12月13日(日)例会 午後1時30分  
東葉線八千代中央駅集合  
「旧萱田村」F・W  
(次年度に向けての現地探索)

---

平成22年

1月7日(木) 亀戸七福神めぐり  
「亀戸七福神巡り」 午後1時  
総武線亀戸駅北口集合  
会員外参加可

---

1月13日(水) 拡大委員会 午後1時  
拡大役員会「次年度事業について」  
会員の事業提案歓迎

---

2月20日(土) 例会 午後1時  
市立郷土博物館学習室  
「遺物からみた萱田」について学習  
○郷土史研通信69号発刊

---

3月14日(日)  
郷土史研通信69号でお知らせ予定

---

【報告】

8月23日(日) 午後1時～4時  
例会 八千代市立郷土博物館例会  
参加27名で行われました。  
・情報交換、機関誌内容、文化祭展示内容、「三山七  
年祭り」花流し取材についてなど  
・「郷土史研通信」67号が発行された。

---

9月19日(土) 拡大役員 & 会例会  
八千代市立郷土博物館 拡大役員会  
午前10時～12時  
8名が参加、今後の会運営などについて  
例会 午後1時～4時  
23名が参加「史談八千代」34号の編集計画の提案  
三山七年祭りについて、ビデオ上映などを交えて学  
んだ。

---

10月15日(木) 午前10時～午後4時  
例会 八千代市立郷土博物館  
「史談八千代」34号校正 展示作品の調整

---

10月18日(日)～20日(火)  
研修旅行 丑歳御縁年秋の出羽三山めぐり  
詳細は『史談八千代』34号に掲載

---

10月28日(水) 午前10時～午後4時  
機関誌編集委員会 八千代市立郷土博物館  
「史談八千代」34号最終校正

---

11月14日(土) 例会午前9時～午後4時  
文化祭展示準備 八千代市立郷土博物館  
文化祭展各発表者20名が展示作品の作成を行っ  
た。午前中は大荒れの天候で、昼食は各自コンビニ  
の軽食で済ませ午後3時頃の作業を終えた

---

11月21日(祝)～23日(日)  
下総三山の七年祭り 現地取材  
下総三山の七年祭りのうち、23日の花流しを現地  
(大和田・萱田町・高津)撮影し、文化祭で展示

---

11月23日(祝) 午前10時～午後5時  
やちよ市民活動サポートセンター祭り  
イオン八千代縁が丘ショッピングセンター  
ローズ広場・アゼリア広場



午前は客足もまばらだったが午後からは増えて盛  
況裡に終了した。会長・牧野副会長・田村・佐久間・  
佐藤(二)・斉藤(君)・畠山・吉野・中島・藤本・成瀬・  
関和各会員が参加した。

---

11月25日(水) 午後1時～4時 七年祭り  
花流し写真展示準備作業 八千代市立郷土博物館  
文化祭発表の「花流し写真」展示作品の作業を行  
った。

---

編集後記

今秋は天皇ご即位20年記念であると同じく八千代  
八福神も創設20周年記念で目出度い年である。  
又、民主政権に変わり、11/13 オバマ大統領の訪日  
に政局も目まぐるしい。

新しい日本の明日を期待したい

(編集子 TS)